

静岡大成中学校第21回卒業証書授与式 学校長式辞

春の足音がようやく聞こえて来る季節となりました。

本日、静岡大成中学校、第21回卒業証書授与式が挙行できましたことを、大変うれしく思います。ご来賓の皆様方には、ご多用の中ご臨席を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。小学校を卒業したばかりのわが子を、朝から夜まで学校に預けることは、さぞ不安だったことでしょう。それから今日まで、陰になり日向になり、お子様の成長を見守って来られ、嬉しかったことや辛かったことなど、さまざまな思いが、よみがえってきていることとお察しいたします。この3年間、本校の教育方針に、ご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

45名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝いをいたします。みなさんは、小学校5年生になる直前に、新型コロナウイルス感染が流行し、不安や心配の中で、毎日を送ったことと思います。中学に入ってもマスク生活が続き、友達の顔を覚えることや、相手の表情をくみ取ることに苦勞したと思います。そういう中で、今日の卒業式を迎えることができたのは、皆さんの力であると同時に、家族や友達、先生などの励ましがあつたからだと思います。自信と感謝の気持ちをもってこれからの人生を送ってほしいと思います。

これまでの15年間、皆さんは、敷かれたレールの上を歩いてきました。親や先生がレールを敷いて、皆さんを正しい目的地に導いてくれたのではないのでしょうか。高校では、レールを敷くのは自分自身です。将来どういうことをしたいのか、その目的のためにどういう目標を立てるのか。自分自身で決め、その目標に向かってレールを敷きましょう。高校を卒業すれば、皆さんは成人となり、社会の一員となります。高校時代は、自分の力で考え、判断し、行動できる、すなわち自律した大人になるための期間として捉えてほしいと思います。

また、高校で、新しい友達や先生との関係をつくる第一歩は対話です。対話で大事なものは、まず相手の話をよく聞くことです。というのは、相手の言葉にはニーズ、つまり求めているものがあり、それに気づけば相手をより理解することができるからです。相手を理解することが、自分を理解してもらうことにつながります。ニーズとは、誰もが持っている、自分が大切にしたいものです。私たちの全ての行動は、ニーズを満たそうとする試みで、満たされれば満足し、幸せな気持ちになりますが、満たされないと、不満や苛立ちとなり、それを満たそうと、感情の対立が起ります。相手または自分が、どういうニーズからその感情に至るのか、対話によって互いのニーズに気づき、それを大切に考えることができれば、対立や衝突を避けることができるでしょう。難しいかもし

れませんが、ニーズつまり、相手が求めていることを意識して対話を深めることで、より良い人間関係をつくることができると思います。

最後に、私の好きな言葉を紹介します。「雨の日には 雨の中を 風の日には 風の中を」相田みつをさんが書いた言葉です。たとえば、マラソン大会は雨が降っても、風が強くても決行です。それに備えて、普段の練習は、雨や風が強い天候でも当然実施します。その時に、背中を押してくれるのがこの言葉です。「雨の日には 雨の中を 風の日には 風の中を」皆さんが、少し後ろ向きに考えるようなことがあった時は、この言葉を思い出し、勇気をもって前に進んでください。

では、卒業生のみなさんのますますのご活躍を祈願し、式辞といたします。

令和7年3月18日

静岡大成中学校 校長 山田 隆司